

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・主語と述語の関係や、文章の構成、展開、その文章の特徴について理解する力	・目的に応じて、文章中の必要な情報を見付け、それらを活用して自分の考えを言語化する力

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	ア自分の思いを伝える際に、単語のみになってしまふことがある。 ア文章を正しく理解する力が不十分である。 イ読んだ文章に対して、自分の考えをもつことが難しい児童がいる。また、考えをもつことができても、話したり書いたりすることに課題がある。	ア授業中の発言に対して、「です」「ます」を付けて話するように指導を繰り返す。 ア挿絵やキーセンテンスに注目させたり、情報を関連付けるための具体的な視点を与えたりする。 イ話型を示したり、ペアで話してからグループで話したりすることで、友達の考えも参考にしながら自信をもって言語化することができるようにする。	ア通年 ア通年 イ通年	
第2学年	ア自分の考えを言葉で表現する際、うまく話したり書いたりすることに課題がある。 イ文章中から必要な情報を抜き出すことが苦手である。 イ自分の考えを書き示し、伝えることに課題がある。	ア主語と述語との関係を意識させ、発表や文章を書く際は例を提示する。 イ文章中の大切なキーワードについて全体で共有する。 イ一言感想や作文の継続的な練習を行う。	ア通年 イ通年 イ通年	
第3学年	ア既習漢字を文の中で適切に使うことに課題がある。 ア目的に応じて、出来事や自分の考えを文に書き表すことに課題がある。 イ大まかな要旨を捉え、中心となる語や文を見付けることに課題がある。	ア普段から文中に出てくる既習漢字を正しく使うように継続的に指導する。 ア日記や学習感想など、日常的に文を書く機会を増やすようにする。 イ物語文や説明文の読解を重ねながら、読書に親しめるように読書量を増やす取組を行う。	ア通年 ア通年 イ通年	
第4学年	ア主語や述語を捉える力はある程度身に付いているように見られるが、自分の意見や考えを書くときに、主語を入れずに書いている姿が見られる。 イ目的に応じて、文章中の必要な情報を見付けることに課題が見られる。	ア「誰が」「どうした」という文章の型を意識させて、自分の考えや文章を書くよう日頃から指導して、定着を図る。 イ必要な情報は何なのか、問題文では何を聞かれているのかを、問題文をよく読むよう日頃のテスト、課題から指導する。	ア通年 イ通年	

<p>第5学年</p>	<p>ア当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことに課題がある。</p> <p>イ目的に応じて感じたことや考えたことを筋道の通った文章となるように書き表すことに課題がある。</p>	<p>ア反復学習に取り組ませ、定着を図る。また、板書や自主学習で取り組む日記の中で漢字を正しく使うように程度指導する。</p> <p>イ文章構成の型を示し、それに沿って自分の考えを表現できるようにする。</p>	<p>ア通年</p> <p>イ通年</p>	
<p>第6学年</p>	<p>ア文と文のつながりや関係性をとらえ、おおまかな内容を理解することに課題がある。</p> <p>イ目的に応じて要約しながら自分の考えをまとめる力に課題がある。</p>	<p>ア段落の関係性や、文の前後のつながりを意識して文章を読ませるようにする。</p> <p>イ文章構成(初め、中、終わり)、主張や事例など学習してきたことを日々意識させ文章をまとめる活動を取り入れる。また、決められた字数の中で、より自分の考えを分かりやすくまとめる学習の機会を増やす。</p>	<p>ア通年</p> <p>イ通年</p>	

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p>
<p>1年 学習支援アプリを活用することで、一人一人の考えを共有し深める。【重点:協働】</p> <p>2年 学習アプリを使い、指導者から児童に資料を送ったり、各個人の考えを書き記したり、それらを全体で共有したりする機会を多くもつ。【重点:協働】</p> <p>3年 友達が表現した文章をタブレット端末で読み合い、自分の考えと比べたり深めたりしていく。【重点:協働】</p> <p>4年 タブレット端末を活用して、自分の考えや友達の考えを共有し、互いの文章構成を見直したり、考えを深めたりする。【重点:協働】</p> <p>5年 タブレット端末を活用しながら自分の考えをまとめたり、友達の考えを読み合ったりする。【重点:協働】</p> <p>6年 タブレット端末を活用しながら自分の考えをまとめ、全体で発表する活動を取り入れる。【重点:個別】</p>	<p>1年 児童から出た初発の感想や疑問点を基に学習課題を設定し、児童が主体的に学ぶことができるようにする。</p> <p>2年 各単元の始まりには、全体的な学習活動の流れを示し、見通しをもって学習活動に取り組めるようにする。単元の終わりには、学習してきた内容の振り返りをノートや作文用紙に書く。</p> <p>3年 教材に対する興味・関心を高められる工夫をしたり、学習方法について見通しをもたせたりする。</p> <p>4年 物語文や説明文の内容を読み取るだけでなく、読み取るために必要な力や視点を学ぶことで、どの勉強においてもその力を活用できるようにする。</p> <p>5年 単元のゴールを示し、学習の見通しをもてるようにする。また、単元を振り返り、学びを言語化し、意識できるようにする。</p> <p>6年 目標に向かう道筋を自分自身で決め、その道筋が適当だったかどうかを振り返る活動を取り入れる。</p>